第13回総合アレルギー講習会 実習詳細

喘息の診断とコントロール評価の方法：喘息診断アルゴリズムとコントロール評価表、スパイロメトリー、気道可逆性検査、ピークフロー測定、気道過敏性検査、運動誘発検査、呼気NO測定、広域周波オシレーション法

1. 目標：この実習に参加されたあなたは・・・

気管支喘息の診断やコントロールの評価に用いられる各種生理学的検査法や質問票を理解し、患者さんに分かりやすく説明することができるようになります。

2. コンテンツ：この実習の内容は・・・

喘息の診断やコントロールの評価に役立つ諸検査（スパイロメトリー、気道可逆性検査、ピークフロー測定、気道過敏性検査、運動誘発検査、呼気NO測定、広域周波オシレーション検査）の基本、喘息増悪の評価方法、質問票による喘息コントロール状況の把握などに関する講義とともに、各種検査を実際に体験していただきます。最後に問題を提示し、理解を深めてもらう予定です。





